

果樹カメムシ情報第2号

平成25年8月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 チャバネアオカメムシの発生状況

- (1) 予察灯における誘殺数は、豊橋市、新城市ともに少ない状況が続いています（図1）。
- (2) フェロモントラップにおける誘殺数は、豊田市、幸田町、豊川市、新城市のいずれの地域でも、少ない状況が続いています（図2）。

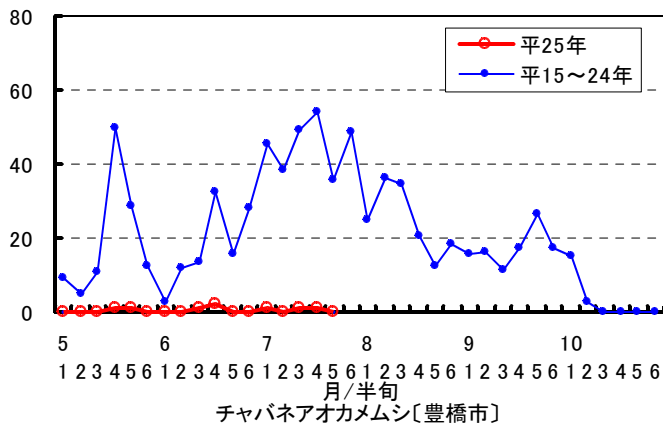


図1 予察灯における誘殺状況

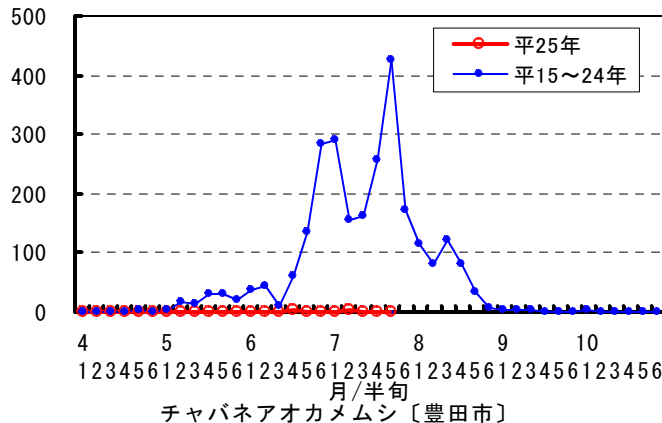


図2 フェロモントラップにおける誘殺状況

- (3) 7月中旬のヒノキ1結果枝当たりのチャバネアオカメムシの寄生虫数は、成虫が0.1頭（平年0.25頭）、幼虫は0.05頭（平年0.32頭）でした（図3）。ヒノキ球果におけるカメムシの口針鞘数が25本になると、ヒノキ球果から離脱すると言われていています。7月中旬の口針鞘数は平均0.9本ですが、幸田町須美では2.9本とやや多い状況でした（図4）。

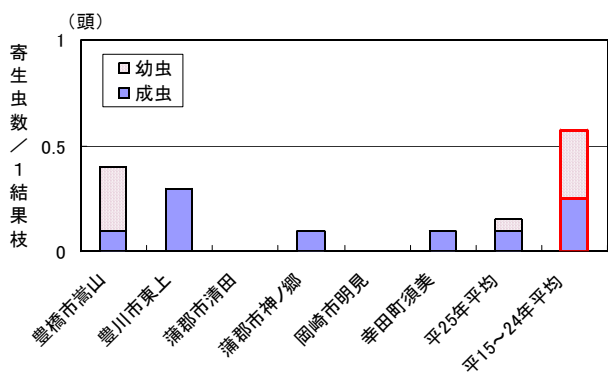


図3 7月中旬のヒノキ球果における寄生虫数

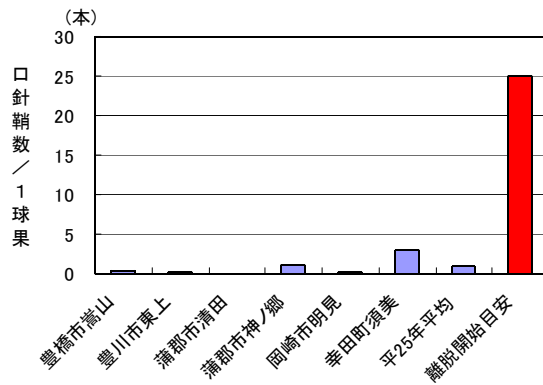


図4 7月中旬のヒノキ球果における口針鞘数

2 今後の発生予測と対応

- (1) 越冬世代成虫から新世代成虫への世代交代時期に入っています。ヒノキ球果の着生量が平年と比べやや多いため、8月上旬以降に発生する新世代成虫の発生量は、平年と比較してやや多くなると予測します。
- (2) 新世代成虫の果樹園への飛来時期は、7月中旬時点のヒノキ球果の口針鞘数から、9月上旬以降と予測します。そのため、8月における新世代成虫の果樹園への飛来量は少ないと予測します。
- (3) ただし、幸田町須美では、7月中旬の口針鞘数がやや多かったため、8月下旬から果樹園への飛来が始まるおそれがあります。そのため、幸田町近辺では、8月下旬以降は、果樹園内をよく見て回り、果樹カメムシ類の飛来に注意しましょう。
- (4) スギ・ヒノキ林の近くの果樹園では、台風通過などで突発的に飛来が急増することがありますので、注意しましょう。